

 箕面小だより 		箕面市立 箕面小学校 令和6年(2024年) 7月号
学校教育目標 めざす子ども像 めざす学校像	支え合い、ともに伸びゆく箕面小っ子 ともに考える子(知)、ともに高め合う子(情)、ともにやりぬく子(意) ○あいさつと笑顔であふれる学校 ○思いやりと優しさが感じられる学校 ○高学年が在校生の「あこがれ」の存在となる学校 ○保護者・地域とともにあゆみ、信頼される学校	

対話≠議論

校長 垣内 幸太

本校では、今年度は「対話」をテーマに授業研究を進めています。全学年で順次、研究授業をおこない、全員で参観します。その授業における子どもの姿、教師の姿からよりよい授業を模索していくことが目的です。

「対話」においては、異なる意見に対しても、否定せずに耳を傾け、しっかり受け取ることが大切です。そのなかで互いに理解を深めたり、新しい考えを得たりすることができます。一方的なコミュニケーションではありません。

しかし、「対話」ではなく、「議論」になることがあります。「議論」では、互いに自分が正しいと考え、自分の主張をぶつけ合います。テレビ番組で、「はい、論破!」という言葉が流行ったように、自分の考えを様々な理論、理屈を並べて相手の意見を封殺しようと試みます。大人の世界でも往々にして見かける光景ではないでしょうか。そこで自分の意見が通った側は気分よく終わることができます。しかし、負けた側は、よい気持ちで終わることはありません。それどころか、相手に対して怒りの感情を持つこともあるでしょう。わたしたちは、互いが気持ちよく終わることのできる「対話」の力を身につけてくなくてはなりません。なぜそう思うのか、どこが私の考えとは異なるのか、どこが共通点として見出せるのか…。相手のことを慮り、想像できる力が必要です。

ついついわたしたち大人も正しいことだけを主張してしまいます。
「それはおかしいでしょ!」「約束だったよね!」「何度言えばわかるの!」…
そして、子どもたちを追い詰めます。結果、子どもたちは言い返すことをやめてしまっていますが、心の中は釈然とはしていません。もう少し言葉を変えて、「私はこう思うんだけどどう思う?」「約束していたけどこれからどうする?」「どうすればできるか一緒に考えてみよう」…
と言えていたら、もっと違った結末が待っていたのかもしれないのに…。わたし自身も、子どもたちと話をするときに気を付けていることです。

夏休みまで残すところ3週間、学期のまとめの時期を迎えました。来週から個人懇談も始まります。これからの子どもたちの成長に向けて、保護者の方々とよい「対話」の時間が持てましたら幸いです。短い時間ではありますが、よろしくお願いいたします。